

5 飯伊地域の発展方向

飯田市・松川町・高森町・阿南町・阿智村・平谷村
根羽村・下條村・売木村・天龍村・泰阜村・喬木村
豊丘村・大鹿村

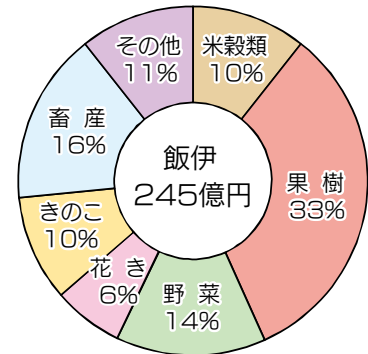
～食・人・文化 新たな出会いが生み出す南信州農業～

地域農業・農村の概要

■ 農業・農村の特色 ■

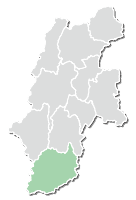
- 飯伊地域は、山間傾斜地が多く、1戸当たりの耕地面積が狭いため、小規模多品目の多角化経営が主体となっています。
- 農業従事者の高齢化（＊65歳以上比率66.7%）や後継者不足等により、担い手が減少し農業生産力の低下が懸念されています。（＊H22 農林業センサス）
- 地域団体商標を取得した市田柿をはじめ、「信州の伝統野菜」や竜峡小梅、茶、ゆず等の特色ある地域農産物が生産されています。
- 酪農、肉牛、養豚など畜産業については、戸数は減少傾向にあるものの、高品質で特色ある畜産物の生産を目指しています。
- 農産物加工施設や農産物直売所、観光農業や農家民宿などのグリーン・ツーリズムへの取組が盛んであり、今後の三遠南信自動車道やリニア中央新幹線の開通を見据えた商品開発や品揃えの充実等、高付加価値化による経営力の向上が求められています。
- 農業水利施設の老朽化が進んでおり、急峻な地形、脆い地質といった自然条件や東海地震防災対策強化地域に指定された市町村が多く、災害を受けやすいため、基幹水路やため池の防災対策が求められています。

平成22年度
農産物産出額の割合
(地方事務所推計)



■ めざす将来ビジョン ■

- 新規就農者、U・Iターン、定年帰農者など多様な担い手の確保、育成が進み、地域の特性を活かした経営の多角化による付加価値の高い農業経営が展開されています。
- 飯伊地域の主要果樹である「りんご」、「なし」、「市田柿」の安定した経営継承システムの構築が進み、新規就農者や集落営農による共同経営や農業法人等の新たな担い手による持続的で生産性の高い果樹産地が形成され、さらに地域団体商標を取得した市田柿のブランド化が一層推進され、総合的な果樹産地の地位を維持しています。
- 中山間地域の立地や気象条件を活かした果菜生産に加え、アスパラガスやいちご、白ねぎ等の多品目を取り入れた野菜の周年複合産地化が進み、安定した所得が確保できる野菜経営が展開されています。また、花き分野では、市場性が高まるダリア等のシェア拡大を推進しながら、小規模産地ならではの花と多品目野菜を組合せた、花き野菜複合経営が展開されています。
- 農業と地域の自然や農村文化資源を活かしたグリーン・ツーリズムなど観光型農業への取組が一層進み、さらに三遠南信自動車道やリニア中央新幹線の開通によって、伝統と農村文化の息づく飯伊の里へ都市部から多くの人々が訪れ、交流の輪が広がっています。
- 伝統野菜等飯伊地域ならではの農畜産物を活用した農畜産物加工が一層推進され、地元食品産業ともタイアップした6次産業化等による新たな農村ビジネスが展開されています。また、海外にも誇れる高品質な農産物の輸出に向けた取組が行われています。
- 地元企業や規模拡大を目指す農業法人等による遊休農地の積極的な活用が進められるとともに、関係機関の連携による集落ぐるみの鳥獣被害防止対策により、継続して農業が営める農村環境の維持が図られています。
- 基幹的農業水利施設及びため池の耐震対策、地すべり防止、山腹水路の土砂崩壊防止などの整備が計画的に進められ、安全で災害に強い農村が実現しています。



重点的な取組方向

重点戦略1 多様な担い手の育成による地域農業の再編と企業的農業経営の展開

農業従事者の減少と高齢化の進行により、農業の担い手不足は年々深刻になっています。特に果樹経営等においては、後継者の確保困難から経営規模の縮小や転換、離農意向を示す農家が増加しており、地域農業の再編が急務になっています。

このような中、地域ごとに人・農地プランを定め、中核となる担い手を明確に位置付け、地域農業の維持発展を図る取組が進められています。

達成指標	現状 (H22)	➔	目標 (H29)
□ 40歳未満の新規就農者数 (単年度)	24人		28人
□ 認定農業者数	687人		690人
□ 農業生産法人数	79組織		93組織

推進方策

- 就農相談や各種就農支援事業等を活用した新規就農者の確保・育成
- 農業後継者等の企業的経営志向や組織の法人化等への支援
- 帰農塾、スキルアップセミナー等の開催による技術・経営力及びマーケティング力の向上支援
- 農地中間管理事業等による農地の利用集積や樹園地継承体制の構築



【りんごわい化園での帰農塾】

重点戦略2 新技術や新品種の導入によるりんご、なし、かきの生産振興

果樹は管内農業産出額の40%（市田柿を含む）を占める最大の品目であり、地域の立地条件からも果樹類の振興は極めて重要な課題です。このため、早期成園化や省力可能な新技術の導入、消費者ニーズの高い県オリジナル品種の推進等を通じて、りんご、なし、かきなど地域特産果樹の振興を図ることが必要です。

達成指標	現状 (H22)	➔	目標 (H29)
□ りんご新わい化栽培面積	14ha		100ha
□ なしジョイント仕立て栽培面積	0.2ha		5ha
□ かきの栽培面積	511ha		530ha

推進方策

- りんご新わい化栽培の推進
- りんごの県オリジナル品種の生産拡大
- なしジョイント仕立て栽培の技術確立と普及拡大
- 遊休農地等の活用による原料柿の生産振興
- 適樹勢の維持・病害虫防除の徹底・適期収穫による原料柿の品質向上
- 無核大粒有望品種の生産振興による新たなぶどうの産地づくり



【なしジョイント仕立て】

重点戦略3 果菜類や新興野菜の推進による複合産地の構築

飯伊地域における野菜類の生産は、地域の気象を活かして果菜類を中心にアスパラガス等多品目の生産が行われ、近年ではいちご、白ねぎなども取り入れた複合産地化が進んでいます。

また、個々の経営においても、市田柿などの果樹やきのこの複合経営を進め、経営の安定化・所得確保を図る必要があります。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□きゅうり、トマト栽培面積	89ha	100ha
□アスパラガス栽培面積	84ha	100ha
□いちごの栽培面積	5ha	6ha
□白ねぎ等新品目栽培面積（ねぎ、ズッキーニ）	9ha	12ha

推進方策

- アスパラガスの施設化、白ねぎの機械化一貫体系の推進
- 優良品種の選定・導入（きゅうり、白ねぎ等）
- 単収向上及び連作障害回避のための栽培技術高位平準化
- ズッキーニ等の市場性の高い新品目の検討及び導入促進
- 複合経営モデル指標の作成及び複合経営体の育成
- 環境にやさしい農業の推進と農産物の販売促進
- 食品産業との契約取引の拡大



【いちご高設栽培】

重点戦略4 特産農畜産物のブランド化と6次産業化の推進

飯伊地域では、気象条件や立地条件に生まれ、地域独特の食文化に根ざした特徴ある農産物（伝統野菜や干し柿（市田柿）、茶など）の生産が行われています。

また、近年ではプレミアム牛肉やダリアなど新たな品目にも取り組んでおり、これら特産農畜産物の積極的な生産拡大とブランド化の推進を図ることが課題となっています。一方、地元食品産業等とのタイアップや6次産業化の取組も活発で、今後の加工・販売事業拡大への期待も高まっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□伝統野菜の栽培面積	8.2ha	10ha
□ダリアの栽培面積	2.8ha	5ha
□脱針化による市田柿の生産量	869t(H23)	2,000t
□六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	0件	10件

推進方策

- 「キヌヒカリ」から「風さやか」への転換と、転作品目として飼料用米などの取組を拡大
- 伝統野菜のフェアや商談会等による認知度の向上
- 伝統野菜の生産組織の維持強化による生産拡大
- 農産物生産に係るGAPの推進
- 茶の台切り更新による単収増と品質向上
- 肉用優良雌牛の選抜による肉牛改良の促進
- 需要期に向けたダリアの秋出荷量の拡大
- 六次産業化法に基づく総合化事業計画の策定支援



【伝統野菜 ていぎなす】



重点戦略5 安心して暮らしやすい農村の創造

野生鳥獣による被害の発生により、中山間地域では農業生産意欲の減退が著しく、被害農地が耕作放棄地となり、周辺農地の生産活動に支障をきたしています。一方で、侵入防止柵の設置が徐々に進み、効果を上げています。また、農業者の高齢化、減少により、農業生産や集落機能の維持が困難となっており、地域共同活動による対策が必要となっています。

天竜川沿いの農業地域では、昭和の20年代から40年代に造成した基幹的農業水利施設の老朽化が進み、維持・更新による長寿命化及び耐震対策が求められています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□野生鳥獣による農作物被害額	14,880 万円	12,000 万円
□遊休農地の再生・活用面積 (単年度)	47ha	60ha
□地域ぐるみの多面的機能支払等取組面積	1,335ha	3,019ha
□基幹的農業水利施設更新による受益面積	500ha	1,350ha

推進方策

- 地域の実情に応じた侵入防止柵の整備
- 野生鳥獣を寄せ付けない集落環境整備の実践及び集落ぐるみによる捕獲体制の確立
- 多面的機能支払及び中山間地域直接支払等を活用した生産活動の維持と国庫交付金等を活用した耕作放棄地の解消
- 基幹的農業水利施設及びため池の耐震対策による安全な農村づくりの推進



【飯田市上久堅の侵入防止柵】

重点戦略6 地産地消と地域の食文化に対する理解の促進

飯伊地域は全国的にも先進的なグリーン・ツーリズムが展開され、学習旅行による小中学生の農業体験の受入や、観光果樹園への入客が多くなっています。一方で、市田柿や伝統野菜等を活用した特徴ある豊富な食文化の若い世代への伝承が課題となっています。

また、全域にわたり直売所等への出荷を中心とした農業に従事する高齢農家が多く、「おいしい信州ふーど(風土)」を活用した地産地消運動の牽引役としての活躍が求められています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□都市農村交流人口	190,758 人	205,000 人
□学校給食県産農畜産物利用率	38.8%	45%
□販売額1億円超直売所数	4 か所	6 か所

推進方策

- 農家民宿組織等の農山村資源の積極的な活用等による事業推進への支援
- 地域食文化にふれあう食育イベントや世代間交流等による農村・地域コミュニティの場や機会づくりの推進
- 伝統野菜等特徴ある商品の販売体制確立による農産物直売所の活性化
- 学校給食等における地元農産物や加工品の利用促進



【小野子にんじんの収穫】